■**渋沢栄一** 実業家。維新直後から企業設立や経済界組織形成で資本主義を先導、社会・公共事業にも広く関係した。

しぶさわえいいいち
勲進帳初演・1840＝ 武蔵国榛沢郡血洗島村で、富農渋沢市郎右衛門の子に生まれる。

阿部正弘首座1845＝ 5歳：この頃から、書物に興味をもち始め、**父から最初に学んだ「論語」**が、生き方の背景になる。

・・・ 1847＝ 7歳：この頃、**父の要請で従兄の尾高(新五郎)惇忠**が開いた塾に入り、四書五経や水戸学の影響を受ける。
北斎没・・・ 1849＝ **9歳**：

藍玉の目利きだった父の薫陶を受けて、藍玉生産等の家業に従事し、この間、遊学で来村した菊池菊城が渋沢宗助宅に開設した私塾(本材精舎)に、惇忠とともに入門。

パリ一来航・1853＝13歳：祖父と一緒に藍葉を仕入れに出かけ、商才を発揮して、上質の藍の葉を安く仕入れてくる。
開国開港・1854＝14歳：叔父と江戸行。書籍箱と硯箱を購入。硯箱、高価なため父より厳しく叱責される。
安政大地震・1855＝15歳：姉の病氣平癒の祈薦に来た霊媒師のインチキを見抜き、追い返す。
松下村塾・1856＝16歳：父の名代として代官の陣屋に出頭、代官から嘲弄され、将来見返してやるうと決意、
五ヶ国条約・1858＝**18歳**：惇忠と藍の売込みで信州を巡り、両者で「巡信記詩」を著作。この間、話が進み、惇忠の妹千代と結婚。

桜田門外変・1860＝20歳：江戸に遊学。**尊皇論に傾倒して、倒幕を考えるようになり**、
遣欧使節・1861＝21歳：品質向上を目指し、自らの行司役を買って、「藍玉製造農家番付」を作成するなど、才覚を見せる。
生麦事件・1862＝22歳：**惇忠と高崎城乗っとり計画を立案、惇忠の弟長七郎の説得で中止するが、長七郎が殺人事件を起こして窮地に陥り、勘当の形で、従兄の渋沢喜作と、京都一橋家の平岡四郎を頼って上洛、なお倒幕を語るも、**
8月18日政変 1863＝23歳：**栄一の才能を見込んだ平岡に説得されて、一橋家に仕官、平岡に頼み込んで、慶喜に謁見して、なお自論を披歴するも、慶喜からも見込まれるが、直後に、平岡は暗殺されて、後ろ盾を失う。**

禁門の変・1864＝24歳：歩兵取立御用掛として領内を巡回、代官のあくどい裏工作にもかかわらず、応募者450人以上の成功。
薩摩藩士密航1865＝25歳：**一橋(徳川)慶喜が15代将軍に就いたことで、自らの思いに反して幕臣になってしまうが、慶喜の頼みで、**
薩長同盟・1866＝26歳：**その弟昭武がパリ万国博の名代として招待されるのに随行するという榮譽、パリでナポレオン三世にも謁見。ヨーロッパ各地を訪問して近代的社会経済の諸制度や産業施設を見聞、大政奉還を知った後、**
大政奉還・1867＝**27歳**：**命で帰国、フランス行の報告で、静岡に隠棲する慶喜に会って涙する。静岡藩勘定組頭に任じられ、**
***株式会社先駆)商法会所を設立するが、明治政府に招聘され、大蔵省も統合した民部省租税正となり、**

税制の改正その他江戸時代以来の行政の改革にあたる。民部省改正掛掛長も兼務、
制度取調御用掛も兼ねたのち、大蔵少丞に昇格し、富岡製糸場事務主任となる。
独立した大蔵省の権大丞から大丞になり、廃藩置県の会議に出席。紙幣頭を兼任し、新貨幣を発行、
大蔵少輔事務取扱になったが、陸海軍費節約による均衡財政の主張が認められず、
***井上馨と連名の意見書提出して退官。第一国立銀行を創設し、総監役となるとともに、抄紙会社(王子製紙)**

)を設立し以後、株式会社による企業設立を推進、
佐賀の乱・1874＝34歳：小野組の破産問題で存亡の危機も、井上馨の尽力で脱出。東京府知事より東京会議所共有金取締を囑託。
初の民間工場1875＝35歳：東京会議所委員に推される。商法講習所を開始。**互選により、第一国立銀行頭取。**

三つの反乱・1876＝**36歳**：**東京会議所会頭に選挙される。東京府より養育院および瓦斯局事務長を申しつけられる。**
西南戦争・1877＝37歳：富岡製糸場の創設に関わった惇忠が辞職を余儀なくされると、第一国立銀行盛岡支店支配人に採用。

大久保暗殺・1878＝38歳：岩崎弥太郎から招待を受けるも、意見が合わず決裂。以来、反目。**東京商法会議所を創立し会頭、以後、**
琉球処分・1879＝39歳：**東京海上保険会社、**

・・・ 1880＝40歳：**東京銀行集会所の創立委員長はじめ、銀行家や実業家のための組織づくりにも尽力、**
明治14年政変1881＝41歳：**日本鉄道会社(国鉄を経て、東日本旅客鉄道)、**

新体詩抄・1882＝42歳：妻千代が病死。**共同運輸会社(日本郵船)、大阪紡績会社(東洋紡)、**
岩倉具視没・1883＝43歳：かねと再婚。**東京商工会会頭に選挙される。**

秩父事件・1884＝44歳：磐城炭鉱株式会社社長。**商法講習所が東京商業学校と改称、のちの、一橋大学への第一歩。**
内閣発足・1885＝**45歳**：東京瓦斯会社。***東京市営になった養育院の院長になり、以後、没するまで続け、事業を拡大に尽力。**

国民之友始・1887＝47歳：門弟たちに前半生を語ったものが、筆記本「雨夜譚(あめよがたり)」となる。**東京手形交換所創立委員にもなる。東京人造肥料会社、東京ホテル(帝国ホテル)、札幌麦酒会社、**

石川島造船所など、次々と誕生させ、この間、三井財閥と密接に連携している。
帝国憲法発布1889＝49歳：帝国議会発足と同時に、貴族院議員に推されたが、なじまなかったのか、

帝国議会始・1890＝50歳：辞している。**東京商業会議所会頭以後も長く務め、ビジネスマンの地位の向上・発展に尽力。**
足尾鉾毒始・1891＝51歳：水道鉄管問題で暴漢に襲われる。

大本教・・・ 1892＝52歳：石川島造船所会長、王子製紙会長、
郡司千島探検1893＝53歳：**東京瓦斯会長。**

日清戦争始・1894＝**54歳**：東京興信所創立。**東京銀行集会所会長になり、新発足した第一銀行に、引き続き頭取、**
白馬会・・・ 1896＝56歳：衆議院議員選挙法改正期成同盟会会長。

Bushidou・・・ 1899＝59歳：この年刊行された「青淵先生六十年史」の冒頭に、「雨夜譚」が収録された。**男爵を授けられる。**
ピノ/国産化・1900＝60歳：自らの礎を造ってくれた尾高惇忠が死去、その死を悲しみ、墓碑銘を揮書。

田中正造直訴1901＝61歳：妻同伴で、欧米漫遊。
教科書疑獄・1902＝62歳：**妻同伴で、欧米漫遊。**

日比谷公園・1903＝**63歳**：**東京商業会議所会頭を辞任し、**
日露戦争終・1905＝65歳：韓国視察。南満州鉄道会社設立委員。

満鉄発足・1906＝66歳：湯島聖堂で、明治維新によって途絶えていた孔子祭典会が復活した際、井上哲次郎が、孔子が偉大なる常識人であると講演したのを聴いて、我が意を得たりと感銘。

韓国反日暴動1907＝67歳：中央慈善協会会長。**各種の社会・公共事業に専念すべく、**
癌研究会副総裁。古希の祝いを機に、全ての関係企業および団体を辞職。渡米実業団長として、アメリカ5

3都市を視察。タフト大統領、ロックフェラー氏らと会見。
明治天皇没・1912＝**72歳**：消防義会会長。日仏銀行相談役。青淵と号して、**自らの活動を書き溜めたエッセイ「青淵百話」出版、**

大正政変・1913＝73歳：日本結核予防協会副会頭。教育調査会会員。日本実業協会会長。
第一次大戦始1914＝74歳：東北九州災害救済会副総裁。中国視察。

21ヶ条要求・1915＝75歳：**パナマ運河開通記念博覧会をかねて、渡米。ウィルソン大統領はじめ、有力者と会見。**
民本主義・1916＝76歳：理化学研究所創立委員長。**第一銀行頭取を辞し、実業界から完全に引退、**

本格政党内閣1918＝78歳：臨時国民経済調査会委員。
パリ和約・1919＝79歳：臨時財政経済調査会委員。

大暴落・1920＝80歳：国際聯盟協会会長。日華学会会長。日華実業協会会長。**子爵を授けられ、**
原敬首相暗殺1921＝**81歳**：渡米、その後も、

大震災善後会副会長。帝都復興審議会委員、日仏会館理事長、日本無線電信会社設立委員長、日本国際児童親善会会長になり、東京女学館館長はじめ、大倉高等商業、高千穂高等商業、日本女子大学校に関与、

敬愛したアメリカ合衆国で、排日移民法が成立したことに落胆。
自らの生き方の背景になった「論語講義」を出版。

護憲三派圧勝1924＝84歳：この年、東京商業会議所が東京商工会議所になる。万国工業会議名誉副会長、**旭日桐花大綬章。**
治安維持法・1925＝85歳：アメリカ技術者協会名誉会員。中央盲人福祉協会会長。**天皇陛下より昼食に招待され、なお、**
共産党事件・1928＝88歳：**癩予防協定会頭、全日本方面委員聯盟会長、中華民国水災同情会会長を引受け、飛鳥山の自邸で没した。**

満州事変・1931＝91歳：
竹内均(編)「渋沢栄一 “生き方”を磨く」、山本七平「渋沢栄一・近代の創造」、荻野勝正「尾高惇忠」、吉川弘文館人物叢書、人物文庫「日本創業者列伝」、邦永史郎「豪商物語」、人づくり風土記(埼玉)、「この人どんな人」、「没年日本史人物事典」、「日本の群像」、平凡社百科事典、加来耕三「創始者の研究」、山田風太郎「人間臨終図巻」、「目でみる日本人物百科」、「江戸・東京を造った人々」、